

(Ⅱ) 各研修会の概要

◆令和3年度「学校を核とした地域力強化プラン」第1回研修会および事業説明会

- 1 **趣旨** 県で実施される「学校を核とした地域力強化プラン」に係る市町の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明することにより、事業の円滑な実施を図る。また、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象**
 - ・「学校を核とした地域力強化プラン」事業実施市町担当者
 - ・「学校を核とした地域力強化プラン」事業未実施市町の参加希望担当者
 - ・各市町生涯学習・社会教育主管課担当者 ・各市町学校教育主管課担当者
 - ・地域学校協働活動推進員 等
- 4 **日時** 令和3年4月26日(月) 13:30～15:00 (15:00～ CS連絡協議会)
- 5 **会場** 滋賀県庁東館7階大会議室 (※ オンライン参加の場合は任意)
- 6 **内容**
 - 行政説明 ・滋賀県における地域と学校の連携 ・協働推進方針について ・事業概要について
 - ・今年度の研修について ・補助金事務および事業実施の留意点について
 - 講演 演題：「コロナ禍における地域と学校の協働を考える」
 - 講師：武井 哲郎 氏 (立命館大学経済学部 准教授)
- 7 **参加者数** 66名 (来場27名、オンライン39名)
- 8 **講演の概要**



講師より、「地域と学校の協働にはプラス面もあればマイナス面もある。協働そのものが目的化すると、子どもやその保護者に対して負の影響を生じさせることすらある。地域と学校の協働は、子どもの学びや育ちを保障するための手段であることを忘れてはならない。」という基本的なスタンスの説明から始まった。

講演の流れは、①Before コロナの地域と学校の協働、②協働の現状と課題を分析する、③After コロナで求められる協働、④With コロナ時代に取り組むべきこと、であった。地域と学校が協働するときのポイントについて、『学校づくりと地域づくり』および『プログラムの実施 (Doing) と居場所の提供 (Being)』が相補的な関係性にあるということで、2軸4象限を用いて共に考えることによって整理できることを提示いただいた。さらに、After コロナにおいて、『校内居場所カフェの提供』や『こども食堂』、『フリースペース事業』が有効な取組になることや、With コロナ時代における学校運営協議会のバージョンアップを図るためのヒントをご教示いただいた。

9 参加者のアンケートより

- ・国としての施策の流れや事業の仕組みがわかりました。
- ・多くの市町がCSを導入していこうとするときに、要件と活動をしっかりと理解して進めていくことの大切さを認識することができました
- ・After コロナに向けて、学校運営協議会のバージョンアップ、現状の委員は適切であるか、見直していく必要性をわかりやすく話していただきありがとうございました。
- ・「居場所の提供」という視点が参考になりました。どうしてもプログラム実施に目が行きがちです。校内居場所カフェ…いいですね。
- ・研修会の参加は初めてなので、正直内容の理解は3割もできていませんが、紹介いただいた本を活用し再度学習し、少しでも理解を進めていこうと思います。
- ・四領域で示された図が印象的でした。Doing と Being に分けてこれからの動きが明確に示されました。今後どのようにサポートしていくのかを考える目標となりました。
- ・学校づくりと地域づくり、Doing と Being の話により、これまで子どもの生活(暮らし)を漠然と捉えていたところを整理して考えることができ、とても勉強になりました。With コロナ、After コロナを見据えての取組をしていくことが大切と感じました。
- ・どのような人を据えていくのが真の求めるCSの母体となる運営協議会となっていくのか、これから先の本市の目指すCSづくりの大切な提言となると思います。



◆令和3年度「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（新規導入市町等対象）

- 1 趣旨** コミュニティ・スクールおよび地域学校協働活動を導入する（予定も含む）市町・学校の事業担当者や地域学校協働活動推進員等を対象に、事業の趣旨や運営上の留意点などを説明するとともに具体的な体制整備に向けた手立てを学ぶ機会とする。また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策について理解を深め、普及につなげる。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」市町担当事業関係者（各市町担当者）
(2) 公立幼稚園、小・中学校教職員
(3) 地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター・統括的コーディネーター等
- 4 日時** 令和3年7月8日（木） 13:30～16:00
- 5 会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室（大津市京町四丁目1番1号） オンライン（Zoom）による参加も可能
- 6 内容** ○講演 演題：「魅力ある地域づくり・学校づくりを目指して ～具体的な体制づくりと役割～」
講師：宮治 一幸 氏 令和3年度「学校を核とした地域力強化プラン」推進協議会座長、元CSアドバイザー、湖南市立石部中学校元校長

○パネルディスカッション

テーマ：「地域にとっての学校、学校にとっての地域の在り方」

パネリスト：伊藤 照男 氏（CSアドバイザー、岩根小学校元校長）、西 敦生 氏（東近江市生涯学習課 指導主事）、和田 昌子 氏（米原市立大東中学校 校長） [五十音順]

- 7 参加者数** 70名（来場39名、オンライン31名）

8 講演・パネルディスカッションの概要

講演は、『魅力ある地域には、魅力ある学校が存在』し、また、『魅力ある学校づくりは、魅力ある地域づくりにつながる』と信じている」という言葉から始まった。学校は地域の中にあり、子どもたちは地域から通ってくるのだから、学校運営協議会制度を利用して、「学校は地域と一緒に子どもたちと関わっていこう！」という基本的なスタンスの説明をいただいた。講演のキーワードは、学校と地域は「対等」の関係であること、「手間暇」をかけて「手間暇」を楽しむこと、学校運営協議会で出会えるのが「楽しみ」であること、であった。宮治先生のご経験から、湖南市立岩根小学校と湖南市立石部中学校における取組について具体的に説明いただくことで、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進の方策についてのヒントをご教示いただいた。

パネルディスカッションでは、①コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の効果や課題、②地域と学校の取組を持続可能なものにするために必要な視点、③学校の負担感を払拭するための方策、④学校と地域の関係づくり、⑤学校と地域の理解を深めて事業を進めていくための方法、⑥CS導入の義務化によって懸念されること、についてパネリスト3名のそれぞれの立場で意見を述べる内容となった。教職員、行政職員、地域学校協働活動推進員の方々にとって、今後の取組へのヒントを得られる場となった。

9 参加者のアンケートより

- ・目の前の子どもとどう関わりたいのかという強い思いを持って設置に向かいたい。支援から協働へのベクトルで頑張っていきたい。
- ・コミュニティ・スクールは、『しなければならない』と捉えるのではなく、『どんな学校にしたいか』を地域と学校が一緒になって進めていくものだとう理解した。
- ・研修に参加し、頭の中が少しずつ整理されてきました。魅力ある地域づくり学校づくりをめざして、楽しんで取り組めるようにしたいです。
- ・同じ不安をパネリストの方々から質問して下さったので大変参考になった。
- ・それぞれの立場の方からの意見を聞き、学校の不安を受け止めつつ、それでも子どもたちに力を付けるために、CSをいかして学校づくりを進めること、持続可能なためにもそのスタートに共有のビジョンを明確にすることが重要であると学ぶことができた。
- ・「持続可能な活動にしていく」ことが大切だと改めて感じた。そのためには、児童・生徒の表情がイキイキと変わる姿・場面というものを、地域の方々、保護者の皆さん、教員が共有することからスタートすることが大切だと思う。また、児童・生徒や教員に、地域の方々の笑顔が見え、言葉が聞こえることが成長につながり、課題解決につながると思った。



◆令和3年度 県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会

- 1 趣旨** 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションを通して、県立学校における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。

なお、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、当研修は、動画配信によるオンデマンド研修として実施とする。

- 2 主催** 滋賀県教育委員会

- 3 対象** （主に県立学校関係者を対象とする）

- (1) 県立高等学校教職員、県立特別支援学校教職員
- (2) 県立学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
- (3) 各市町担当職員

- 4 実施方法および期間**

- (1) 配信期間 令和3年7月20日（火）～8月31日（火）
- (2) 方法 公開期間を限定した動画配信によるオンデマンド研修

- 5 内容**

- (1) 講演演題：「高校におけるコミュニティ・スクール～持続可能なしくみの実現～」

講師：大阪府立富田林中学校・高等学校

校長 大門 和喜氏、首席 永岡 佳典氏、教諭 藤森 卓磨氏

- (2) 県立CS導入校関係者を交えてのパネルディスカッション

テーマ：「県立学校における地域と学校の連携・協働について」

パネリスト：県立学校CS導入校関係者4名

- ・安藤 清代氏：CSアドバイザー（草津養護学校 現学校運営協議会委員、元校長）
- ・中澤 成行氏：能登川高等学校長
- ・平野 宏文氏：甲南高等学校長
- ・山田 薫氏：CSアドバイザー（元伊香高等学校長）

- 6 動画視聴数**

- (1) 講演：119回 (2) パネル・ディスカッション：（前編）96回 （後編）61回

- 7 講演・パネルディスカッションの概要**

講演では、大阪府立富田林中学校・高等学校のコミュニティ・スクールとしての考え方や取組を中心にお話いただいた。産学官協働を意識した教育活動に取り組み、学校運営協議会では教職員の負担軽減についても考慮されながら、学校運営協議会委員やCSコーディネーターによるサポートのもと、「総合的な探求の時間」において出前授業やフィールドワーク、講演などが実施されていることを紹介していただいた。



パネルディスカッションでは、県立学校でコミュニティ・スクールの導入・推進に携わってこられた元校長・現役校長に加え、これから導入を検討しておられる校長先生にお話いただいた。各校で導入に至った経緯や取り組んでこられた内容、ご苦労いただいたことなどを具体的に説明され、学校運営協議会の委員選定やコミュニティ・スクールを導入するにあたっての考え方についてもご教示いただいた。

- 8 参加者のアンケートより**

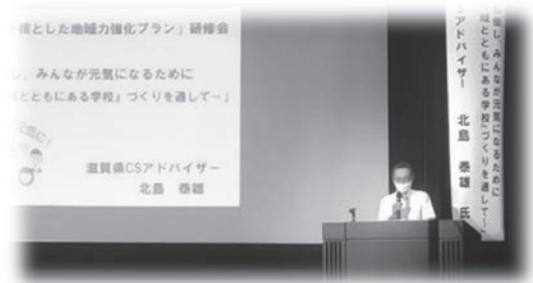
- ・学校運営協議会委員及びCSコーディネーターのサポートにより、円滑に地域学校協働活動が行われていることが伝わってきました。始めるときは気持ちの負担が大きいかもしれないが、いざ、初めて見ると企業からも生徒からも、教員からもプラスになる活動が作り上げられることを学んだ。
- ・「生徒が主体的に活動できる場を見出せる」ことを目標の一つとして、学校・地域・関係機関が一丸となって新しい教育力の構築に向けてスクラムを組むことはたいへん意義深いと思った。
- ・コミュニティスクールの取組を進めるためには、「地域の活性化」と同時に「生徒を地域で育てる」という有用性について、教職員の共通理解が必要なことがわかりました。

◆令和3年度「学校を核とした地域力強化プラン」研修会（事業推進市町等対象）

- 1 趣旨** 将来を担う子どもたちの教育を支えるため、幅広い層の地域住民や企業・団体等の参画により地域学校協働活動が推進されることが期待されている。コミュニティ・スクールの導入も広がりを見せる近年、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策についての理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め一層の推進をねらい、対象者への研修会を開催する。
- 2 主催** 滋賀県教育委員会
- 3 対象** (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」市町担当事業関係者（各市町担当者）
(2) 公立幼稚園、小・中学校教職員
(3) 地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター・統括的コーディネーター等
(主に、既にプラン事業を推進されている市町を対象とした内容)
(4) 「地域連携担当者」等新任研修受講者（選択研修）
- 4 日時** 令和3年8月27日（金） 13:30～16:15
- 5 会場** 滋賀県立男女共同参画センター（近江八幡市鷹飼町80-4）
緊急事態宣言下により、オンライン（Zoom）参加のみ
- 6 内容**
- 講演（50分）
演題：「学校と地域が協働し、みんなが元気になるために
～持続可能な「地域とともにある学校」づくりを通して～」
講師：北島 泰雄 氏（滋賀県CSアドバイザー、元 草津市立草津第二小学校長）
 - コミュニティ・スクール 実践紹介（30分）
発表者：松田 幸夫 氏
（滋賀県CSアドバイザー、長浜市立余呉小中学校 主任事務主査）
 - パネルディスカッション（40分）
テーマ：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の
持続可能な在り方」
パネリスト：3名〔五十音順〕
磯崎 久和 氏（彦根市生涯学習課 主幹）
松田 幸夫 氏（CSアドバイザー、長浜市立余呉小中学校 主任事務主査）
山元 尚美 氏（湖南市立石部南小学校 地域学校協働活動推進員）
- 7 参加者数** 111名（市町58名、地域連携担当者53名）がオンライン参加

8 講演・事例発表・パネルディスカッションの概要

講演は、まずコミュニティ・スクールと地域学校協働活動についての再確認、そして、一体的推進の在り方について説明いただいた。さらに、学校運営協議会を設置する目的、「納得解」を目指す熟議の大事さについて問いかけられ、参加者が考える機会となった。また、持続可能なコミュニティ・スクールの推進のために、地域資源を活かすことや取組の広報・周知、組織づくりについて具体的にご説明いただき、学校・地域・家庭それぞれが元気で明るくなる「三方よし」の学校づくり・地域づくりを目指すことをご教示いただいた。





事例発表では、長浜市立余呉小中学校のコミュニティ・スクールとしての取組を発表された。その中で、「余呉ふるさと科」（生活科・総合的な学習）という9か年におよぶカリキュラムの実践や、子どもや保護者、地域の方、教職員それぞれが思いを出し合い、具体的実践へつなげる熟議「よごトーク」を紹介され、「熟議」「協働」「マネジメント」および目標・ビジョンの共有が大事だということを伝えられた。

パネルディスカッションでは、①コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の効果や課題、②地域と学校の取組を持続可能なものにするために必要な視点、③ボランティア等の人材確保のための方法、についてパネリスト3名のそれぞれの立場で意見を述べる内容となった。教職員、行政職員、地域学校協働活動推進員の方々にとって、今後の取組へのヒントを得られる場となった。

9 参加者のアンケートより

- ・目指す子ども像を共有しながら活動を進め、話し合いの中で「納得解」を見つけようとする姿勢が重要であると感じた。
- ・それぞれの立場で何年もされている中、少しずつ変わってきている様子などもよくわかり、導入された頃より注目していかなければならない問題がよりはっきりしてきた。
- ・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動について、何をするにしても、この仕組みに関わる人々がそれぞれの想いを尊重しながら、子どもたちにどのようなことを伝えていくのかを考えていくことが大切だと感じました。
- ・コミュニティ・スクールに関わっている方々が、それぞれの立場で特色のある取組を紹介していただくとともに、苦勞されていることも知り、イメージ通りに取組が進まなくても焦らずじっくりと取り組んでいこうと思えた。
- ・それぞれの役割や機能が分かり、さらに両輪として機能することで、地域とともにある学校づくりが進むことが分かりました。両輪として機能するためにも、地域連携担当者の役割が大切であることも分かりました。



◆「地域における家庭教育支援基盤構築事業」にかかる研修会

核家族化、地域のつながりの希薄化、そして昨年から続くコロナ禍等、家庭を取り巻く環境が大きく変わり、子育ての悩みや不安を抱えた家庭の増加等、家庭教育を行う上での困難な現状が指摘されている。また、様々な課題を抱えつつ、地域から孤立し、自ら学びや相談の場にアクセスすることが困難な家庭等、支援が届きにくい家庭への対応や、児童虐待など子どもをめぐる状況が懸念される中、本県においては地域の実情に応じ、多様な人材による家庭教育支援活動が展開されている。そこで、各地域で家庭教育支援活動に取り組む人材等が集まり、家庭教育支援活動の現状や推進・人材確保方策等について学び、情報交換や情報共有をすることで、県内家庭教育支援活動のさらなる充実を図るために本研修会および実践交流会を実施する。

1. 家庭教育支援研修会

- | | | |
|-----|---|----------|
| 対 象 | 「地域における家庭教育基盤構築事業」担当者・家庭教育支援員・市町子育て支援担当、民生委員・児童委員、主任児童委員等 | |
| 日 時 | 令和3年9月17日（金）13:30～16:30 | 参加者数 83名 |
| 会 場 | オンラインによる開催 | |
| 内 容 | <ul style="list-style-type: none"> ○講演 演題：「今、求められている家庭教育支援について」
講師：新崎 国広 氏（大阪教育大学 教育学部教育協働学科教授） ○事例発表：「山口県岩国市平田の子どもたち元気応援チームの取組」
発表者：川本 美由紀 氏（「とどける」元気応援サポーター） ○質問コーナー | |



オンライン開催にも関わらず、たくさんの参加者から御発言をいただき、活発な情報交換が実現しました。

2. 家庭教育支援実践交流会

- | | | |
|-----|--|----------|
| 対 象 | 「地域における家庭教育基盤構築事業」担当者・家庭教育支援員・市町子育て支援担当、民生委員・児童委員、主任児童委員等 | |
| 日 時 | 令和4年1月28日（金）13:30～16:00 | 参加者数 72名 |
| 会 場 | 滋賀県立男女共同参画センター 大ホール（オンライン参加も併用） | |
| 内 容 | <ul style="list-style-type: none"> ○講演 演題：「今、求められている家庭教育支援とは」
講師：上村 文子氏（滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー） ○実践事例発表：（近江八幡市および日野町の取組）
近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 指導主事 岡本賢治氏
日野町教育委員会事務局生涯学習課 瀧川純子 氏
日野町立桜谷小学校 家庭教育支援員 若松賢一 氏 ○情報交換 | |



◆令和3年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」成果報告会

- 1 **趣旨** 本研修会は、標記事業に関わる関係者、学校教職員、行政職員等が一堂に会し、各市町における取組事例の発表や「地域とともにある学校づくり」に関する講演を通じて、地域学校協働活動のさらなる展開やコミュニティ・スクールとの一体的な推進に向けて、今後の方策や地域と学校の在り方について、ともに学ぶ機会とする。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象** (1) 地域学校協働活動関係者：地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、ボランティア等
(2) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者
(3) 各市町「学校を核とした地域力強化プラン」関係者
(4) 公立幼稚園・小・中学校教職員、県立高等学校・特別支援学校教職員
- 4 **日時** 令和4年1月20日（木） 13:30～16:00
- 5 **会場** 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
★参加対象者には、できる限りオンライン（Zoom）による参加を依頼。
- 6 **内容**
- 事例発表：湖南省立甲西北中学校
発表者：打田 マヤ 氏（甲西北中学校 教頭）
湯室 美世子 氏（甲西北中学校 地域学校協働活動推進員）
 - 講演
演題：「地域と学校をつなぐ持続可能な体制づくりに望むもの」
講師：谷口 茂雄 氏（湖南省 前教育長）
- 7 **参加者数** 96名（来場5名、オンライン91名）が参加
- 8 **講演・事例発表の概要**

事例発表では、まず、湖南省立甲西北中学校での地域学校協働活動を中心とした取組を発表された。その中で、学校支援員や地域ささえあい推進員などの多くの地域の方とのつながりながら様々な活動をしていくボランティア部を紹介された。

生徒が活躍する居場所や見守り支援する地域の方々を発掘し、学校と地域をつなぐ役割を担う地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の重要性を、具体的な事例を挙げて、ご説明いただいた。

また、その取組により、地域と学校がお互いに必要としあう好循環が生まれ、生徒は自己肯定感を持つことで「大人主導の活動からの脱却」して主体的に行動するという大きな効果につながることを伝えられた。

講演では、まず湖南省における体制づくりをもとに、子どもたちが自尊感情をもって成長していくために地域・学校・家庭がつながる必要があることを説明いただいた。さらに、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の目的、地域学校協働活動との関係性とその教育効果について確認していただき、持続可能なしくみづくりのための学校・家庭・地域の役割分担や、研修や意思疎通の機会の重要性について御教示いただいた。



9 参加者のアンケートより

- ・ 湖南省立甲西北中学校の実践発表では、子どもたち主体で活動する姿、アイデアなど具体的な例が聞けて勉強になりました。
- ・ 子どもたちが主体となって行動できるしかけにすることで、学校の課題が改善されていく様子がよくわかりました。
- ・ 事例発表の中で言われた「やることを楽しむ」という視点を忘れず、地域にある教育資源という宝を掘り当てるようにすることが必要だと感じました。
- ・ 「教育は学校だけで完結しない」という言葉に共感した。本校でも、家庭教育力の支援など、地域と連携しなければ根本的に解決しない課題があり、どうすべきか悩んでいたが、ヒントとなる事例があり参考となった。
- ・ いかにして、先生方や地域の方がトップダウンとして捉えるものではなく、自分たちで作上げていくものという意識をつくっていくかということが大切であることをあらためて気づきました。
- ・ 地域と学校の繋がり強化によって、子どもたちを見守るネットワークができ、その中で学校に足の向かない子どもたちにも自己肯定感を感じられるような活動の場ができつつあるというのは素晴らしいことだと思った。
- ・ 子どもたちの自尊感情を育てるための三本柱、湖南省の教育方針を各学校で張り出されたことをお聞きし、私もまさにそうしたことが必要だと考えていたので、その実践・成果について学ぶことができて大変勉強になりました。

